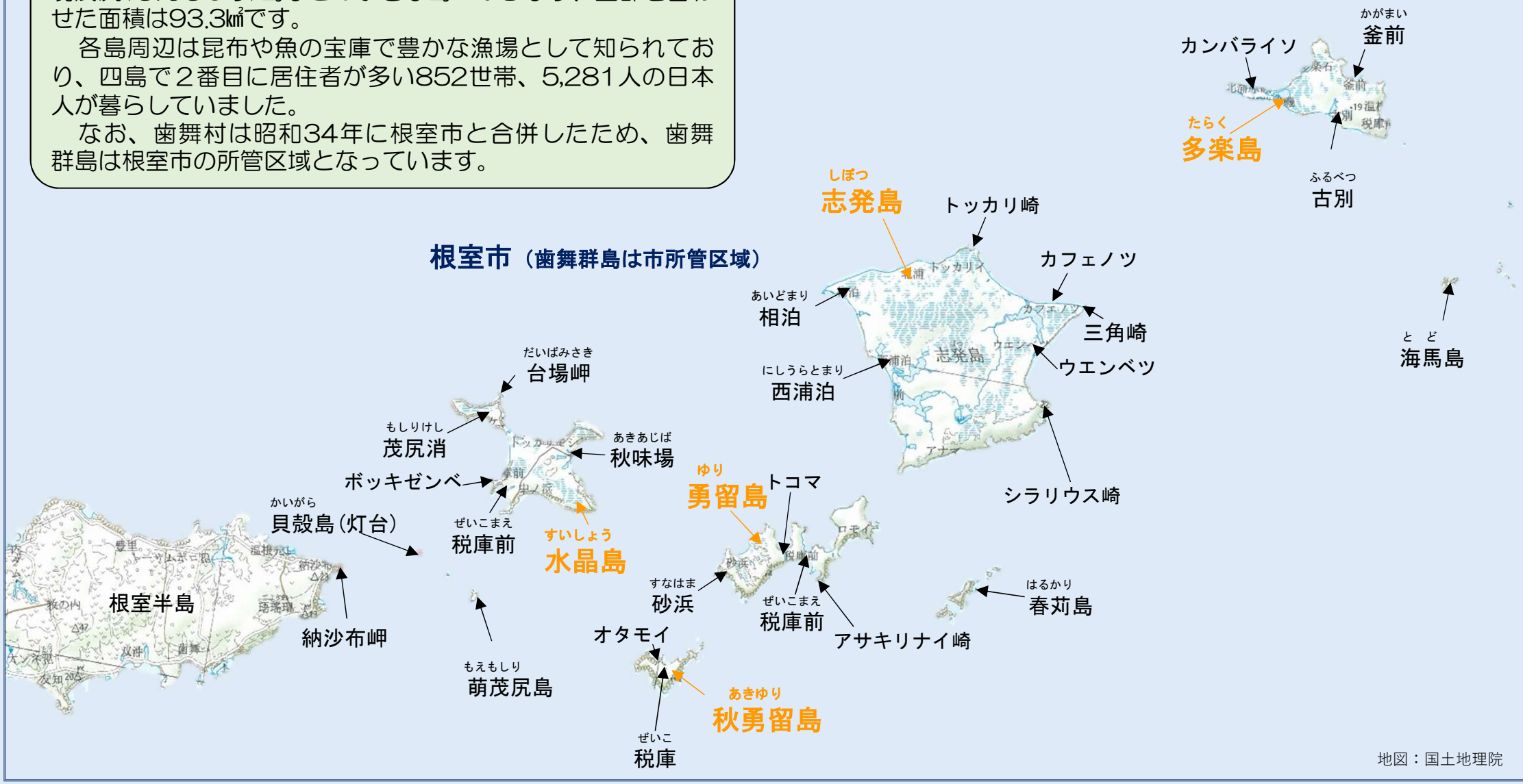
歯舞（はぼまい）群島　～宝の島々～

歯舞群島は根室半島にあった歯舞村の一部で、最も大きい志発（しぼつ）島、多楽（たらく）島、水晶（すいしょう）島、勇留（ゆり）島、秋勇留（あきゆり）島のほか、貝殻（かいがら）島や萌茂尻（もえもしり）島などの小さな島々からなり、全部を合わせた面積は93.3㎢です。

各島周辺は昆布や魚の宝庫で豊かな漁場として知られており、四島で２番目に居住者が多い852世帯、5,281人の日本人が暮らしていました。

なお、歯舞村は昭和34年に根室市と合併したため、歯舞群島は根室市の所管区域となっています。



地図：国土地理院

当時の歯舞群島

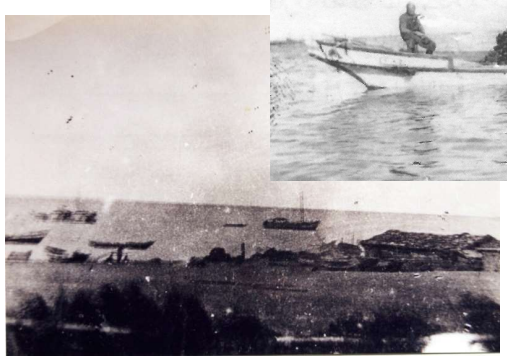
歯舞村の一部であった歯舞群島は、志発島（しぼつ）に歯舞村役場の出張所があり、群島の行政の中心となっていました。

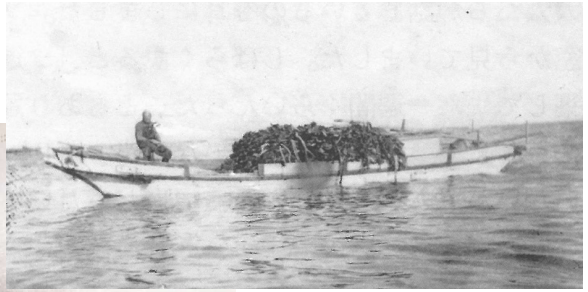
歯舞群島には５島合わせて12ヶ所の港湾があり、それぞれに定期航路の寄港地がありました。

歯舞群島の各島とも主な水産物は海藻類でそのほとんどを昆布が占め、北方四島の総生産量の８割を占めるほど昆布漁が盛んな島々でした。昆布干しができなくなる海霧（ガス）には悩まされることが多かったようです。

昆布漁の定住者の増加に伴い、小学校も作られていきましたが、娯楽が少なかった島の生活では、小学校の運動会は家族全員が参加する一大行事だったそうです。

志発島相泊（あいどまり）
（上は缶詰工場内）





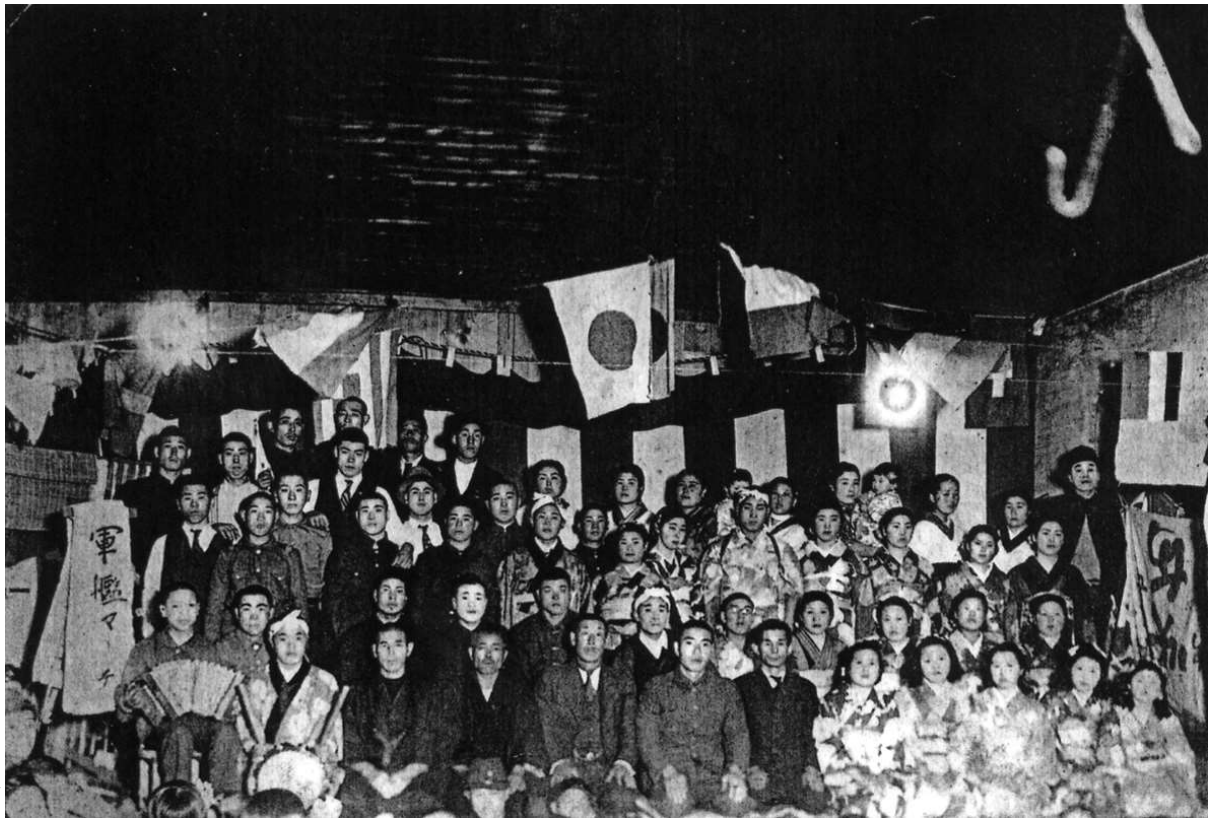
漁船に満載のコンブ

多楽島古別（ふるべつ）

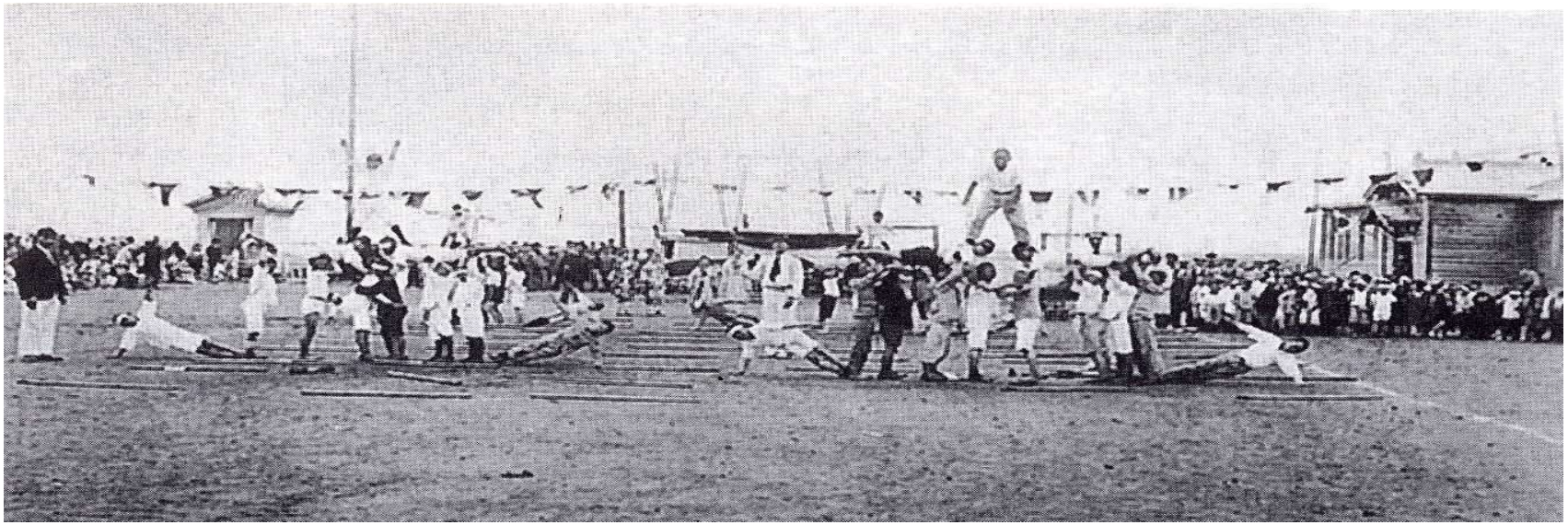
多楽島コンブ漁

写真提供：公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟

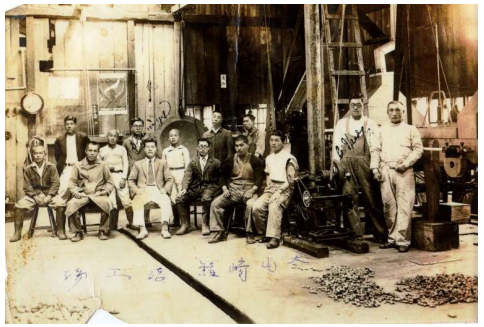
勇留島税庫前金刀比羅神社祭



志発島西浦泊　青年稲荷神社大祭▸



多楽小学校大運動会



水晶島茂尻消缶詰工場

写真提供：公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟

水晶島茂尻消（もしりけし）（2019年7月）

◀勇留島　馬頭観世音石碑（2017年8月）

秋勇留島税庫海岸（ぜいこ）（2010年）

多楽島古別（ふるべつ）の海岸（2018年7月）奥は海馬島（とど）

秋勇留島オタモイ海岸

志発島西浦泊（にしうらどまり）
（2017年8月撮影）

現在の歯舞群島

歯舞群島はロシア国境警備隊のみが常駐しており、ロシア人は居住していません。

元島民等が歯舞群島へ渡る手段は、北方墓参か自由訪問でのみ可能となっており、その際の居住地散策では、当時をしのばせる生活道具など、様々な物を見つけることができます。過ぎ去った年月の長さを物語っているかのようなその光景に思わず言葉を失ってしまう元島民の方もおられます。

昆布採りに使っていた
投げ輪っかの金具

学校の玄関に使われていた
大きなコンクリートの塊

大きな鉄なべ

小屋として使用していた建物

家の土台